



子どもの学力向上に向けて、家庭・学校・地域でできることを考える 令和6年度学力向上フォーラムが開催されました



11月16日(土)上峰町民センターにおいて、学力向上フォーラム(上峰町・みやき町・吉野ヶ里町主催)が開催されました。フォーラムでは、テーマ「ほめるから、はじめる。はじまる。」の下、学力向上へ向けたパネルディスカッションや講演が行われました。

当日は、保護者、教職員、教育関係者など、132名の参加者がありました。



パネルディスカッション

コーディネーターのみやき町教育委員会の野中秀人参事と4名のパネリスト(三田川小学校北島有紀教諭、中原中学校栗山清次指導教諭、上峰小学校PTA 会長江里口翔香氏、吉野ヶ里町教育委員会山崎正隆参事)がパネルディスカッションを行いました。保護者、教職員それぞれの立場から、率直な意見交換が行われました。



① 現在の家庭学習の状況について

- ・中学校までは最低限宿題だけはやるように我が子に言っている。**取組をほめることができる**(保護者)。
- ・子どもが課題意識をもって授業に臨むように、**宿題と授業とを関連付けるなど必然性をもたせる**(教職員)。
→宿題の中で予習を行い「分からないこと」をノートに書かせ、それを授業につなげる。
→授業の討論会での意見を保護者に話をする宿題を出す。
- ・家の中で、子どもと共に学ぶ(保護者)。
→ニュースを見て「〇〇県はどこにあるの?」という**疑問**から、お風呂に日本地図シートを貼り、それを使って覚える。
→子どもの「**〇〇が好き**」ということから、(タブレットを使って調べるなど)保護者も一緒に興味をもって関わる。

子どもの知的好奇心

② どのようにすれば「やる気」は出せますか?

安心安全な居場所

子どもと一緒に過ごす時間

- ・(工藤勇一先生の資料で知った)子どもが**主体的に動くようになる3つの言葉**(「どうした?」「このあとはどうしたい?」「僕は(私は)何をしたい?」)で**相互対話**をする(教職員)。
- ・**子どもと一緒に活動**し、心から思ったこと(「すごいね!」など)を伝える(教職員)。
- ・家庭、学級の中に、**安心安全な居場所**があることが大切である(教職員)。
- ・現実には厳しいけれど…**子どもと保護者が話をする時間をとることが大事**(保護者)。



③ ほめるコツは?

- ・子どもが学校にいることを当たり前と思わず、**子どもをリスペクトする姿勢**で関わり、**その子の中の成長を見ていく。見続けて気付くことが大切**(教職員)。
- ・小さな頑張りや変化に気づき、**心を込めた声掛け**をする(教職員)。

【講演】「子ども達の学力向上に向けて」

講師 佐賀大学大学院学校教育学研究所 松尾 敏実 教授

松尾教授は、これまで学校や教育行政で豊富な経験を重ねられ、その経験を基に、今後の学校経営に必要な視点等について、様々な研究を進めておられます。今回の講演においては、パネルディスカッションの内容も踏まえつつ、多様なデータや文献などを基に「子ども達の学力向上」に向けて家庭・学校・地域ができることを教えていただきました。

○学力向上を考えると、**主役は子ども**であることを意識する。

主役は子ども!

○学校は、**全職員が関わる取組**をつくり出すこと、家庭・地域では、**子どもの話を聴く**ことが大切である。

○主体的・対話的で深い学びを実現していくためには、**教師集団の同僚性**を高め、**授業改善や校内研究に協働的に取り組んでいく**ことが効果的である。

教師集団の同僚性

また、校長のリーダーシップのもと互いに学び合うような学校にしていけることが重要である。

○子どもの学力が高い傾向にある家庭では、**子どもと何のために勉強するのか**話をしたり、子どもに**努力することの大切さ、最後までやり抜くことの大切さ**を伝えたりしていることが報告されている

保護者と子どものコミュニケーションや関わり



なお、フォーラム参加者の主な感想は以下のとおりです(アンケート結果より)。

- 子どもとのコミュニケーションはまだ足りないと感じた。良い機会となった(保護者)。
- 日常的にチームとして動く校内研究になっているか…考えさせられました(教職員)。
- みんなで力を合わせて、子どもも含めて話し合っていくことが重要だと感じた(教職員)。